

トピックス



2016年11月2日、NPO法人カタリバに寄付をさせていただきました。

目の前の困難な課題と
真摯に向き合ったその先に、
子ども達の救える痛みと、
大きく広げられる
未来の可能性がきっとある

代表理事 今村 久美



2012年春、神戸東大橋町にて（撮影：三宅勉）

20歳のさざりとの出会いとは5年前の青森県立八戸南高校。普通の大人数の高校1年生だった彼女は、数年後の高円寺で、後輩たちのためにと涙を流しながら新たなカタリバの現場をつくる未来を想像していたでしょうか。

4年前に岩手県大槌町で出会った優作は、先日進学が決定しました。「もう誰もこんな悲しみを感じなくてもいい社会になるように」と、防災学を学ぶために千葉県の大学に進学します。同級生の影に隠れた自立した中学生だった彼は、震災から2年後、地域でマイプロジェクトを実行する高校生生活を送ることを、そして、人を守る大人になるという志を持った18歳になる未来を、どれほどまでに想像していたでしょうか。

私たちは、自分たちの果たすべき役割について常に思い悩まながら仕事をしています。毎日の出来事は、想定していなかった気づきをくれます。学校現場の先生から、行政の方々、保護者の方々、子どもたち。様々な方々との対話は、時に希望や生きがい、時には失望からの気づきを、与えてくれます。そこからまた、悩み、思考し、対話して、自分たちの仕事の輪郭に変化をもたらします。

14年前に大学生だった私は、今のカタリバの輪郭を想像していませんでした。そして5年後、10年後には、今描いているものとはまた違う未来があるかもしれません。

2人からはじまったカタリバは、当時想定していたよりも大きな組織に成長しました。たくさん仲間たちと共に、たくさん子どもたちのための仕事ができることを誇らしく思います。しかし、関わる業務が多様化した分、ふち当たる壁も大きくなり、悩みも尽きない毎日です。頼らず、企画書に書いた未来に誇られず、毎日ぶつかる目の前の課題と真摯に向かいながら、仕事をしていきます。自らの変化の積み重ねの先に、一人ひとりの子どもたちの救える痛みと、大きく広げられる未来の可能性が、きっとあるのではないかと思うのです。

私たちは、これからも全国でたくさんの方々に参画してもらいながら、子どもたちに「きっかけ」を届け、主体性を育む活動を行ってまいります。今後とも、ご支援・ご参画のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

NPOカタリバ
代表 NPO法人カタリバ
INDEX

- 2 はじめに
- 4 カタリバ事業
- 6 カタリバとは?
- 8 ボランティア紹介
- 9 学校からの評価
- 10 全国への展開
- 11 様々なカタリバ
- 12 東北復興事業
- 14 コラボ・スクールとは
- 16 女川向学館
- 17 大福館学舎
- 18 運営の旅行
- 19 キャリア・プロジェクト学習
- 20 D-lab
- 21 マイプロジェクト
- 22 理念
- 24 支える人々
- 26 評価
- 27 団体概要

草津水生植物公園みずの森で開催した3周年記念チャリティー公演での募金額と草津会場での会費から積み立てたチャリティー基金を充当いたしました。

「カタリバ」さんは、主として震災被災地の放課後学校「コラボ・スクール」を企画運営されている団体で、東北の被災地や熊本の被災地で活動されています。未来を担う子どもたちへ学ぶ機会を積極的に提供されており、間接的ですが被災地の子どもたちへの教育支援に有意義に使っていただけると判断し寄付させていただきました。

No.16-099988

2016/11/02

ミュージックセラピー♪オンタイム♪様

滋賀県栗東市維3丁目2-15-1305

寄附金受領証明書

¥50,000-

特定非営利活動への寄附金として、上記の金額を受領いたしました

(注) この領収書は確定申告で寄附金控除等の税制優遇を適用する際に必要です。再発行はいたしませんので、お手許で大切に保管ください。また、個人の方は住民税につきましても、都道府県又は市区町村の条例指定により税額控除の対象となる場合があります。詳しくは、お住まいの都道府県・市区町村にご確認ください。当団体に対する寄附金は東京都の条例指定対象寄附金です。

認定特定非営利活動法人カタリバ
〒166-0003
東京都杉並区高円寺南3-66-3 高円寺
認定年月日平成25年6月25日
認定番号 25生都管第784号



津波で学ぶ場を失った、 子どもたちのための放課後学校



東北復興事業

「さようなら 今も聞こえる 君の声」「女川の 復興とともに 石碑立つ」これらは、宮城県女川町の中学生が震災から2年半後に詠んだ句です。2011年3月11日、東日本大震災。たくさんの子どもたちが家を流され、家族や友達を失い、勉強のための道具や場所をなくしました。子ども達はそれぞれに歩みを進めています。震災から3年半が経過した今でも、安心して学ぶ場を失った子どもたちが被災地には残されています。「教育の機会に恵まれず、未来を思い描けなかった」こうした悔しさは抱いてほしくないと支援に立ち上がったのがコラボ・スクールです。



【「NPOカタリバ」の熊本地震での活動紹介】

朝日新聞に掲載 ～被災地の子 学び支える 熊本地震～

2016年6月17日付の朝日新聞に、カタリバが熊本県益城町で行う学習支援についてご紹介いただきました。

カタリバは、4月に発生した熊本地震によって安心して勉強できる場所を失ってしまった子どもたちを、「学習機会」と「居場所」の提供を通してサポートする活動を始めています。

記事では、**2011年の東日本大震災以降、宮城県女川町と岩手県大槌町で行う放課後学校「コラボ・スクール」で培った知見・経験を生かしたカタリバの新たな取り組み**について、詳しく伝えています。

(益城町立)木山中は校舎が一部損壊し、益城中央小の八つの教室などを借りて授業をしている。昼休みと放課後にはカタリバがスクールを開校する。先生を務めるのは20～30代のカタリバ職員や大学生ボランティアだ。町立益城中でも図書室を借り、中学生の自習をサポートする。全国で中高生の学習支援活動をするカタリバは、5～6月に両校でスクールを始めた。利用料は無料で、運営費は寄付で賄う。益城町の2校のスクールに通う生徒は約100人。「心のケアにつながるような居場所づくりが大切」とカタリバの今村亮さん(33)は言う。(下記記事より抜粋)

益城町での活動は2017年3月まで続けることを目指していますが、資金的な裏付けはなく、国や県からも援助を受けられる見込みはありません。頼りにできるのは、皆さまからお寄せいただくご支援です。

子どもたちが地震を理由に将来をあきらめることなく、未来を切り



拓いていけるように。「熊本地震子ども応援募金」へのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

資料出所 <http://www.katariba.or.jp/news/2016/06/17/6928/>
<http://www.katariba.or.jp>